音源よもやまばなし

堀内康雄（バリトン歌手）

☜子供の頃から、音楽を聴くのがめっぽう好きだった。下校すればレコードの針を落とし、就寝時にはヘッドホン装着が当たり前の毎日だった。鑑賞から一歩踏み出して、フルートを習っていた小出信也先生宅にお邪魔するようになってから、音楽家への憧れが増幅したように思う。インテリアの隅々まで、こだわり抜かれた先生の感性に触れるのは、毎度刺激的だった。あるレッスンの日、オーディオの脇に置かれた LP ジャケットの美しさに見とれたが、何のタイトルかまでは分からなかった。その後、30 年振りに先生と再会し盃を酌み交わした折り、ご自身の数ある LP の中で「これだけは CD に復刻出来て良かった」と述懐されたが、その LP ジョリヴェ『フルート協奏曲第2番』こそ、気になっていたジャケットのタイトルであった。LP を購入するのに、ジャケットデザインも重要なポイントになったのも、このカバー画がきっかけだったと思う。ヨッフム指揮『田園』、プレヴィン指揮『トゥーランガリラ交響曲』、マルケヴィッチ指揮『兵士の物語』などお気に入りのジャケットを眺めながらの鑑賞は、至福の時間だった。ほどなくしてオペラの LP も聴き始めた。なかでもカラヤン指揮『ばらの騎士』『サロメ』、ベーム指揮『ナクソス島のアリアドネ』の写真資料や装丁の素晴らしさは CD の比ではなく、針を落とすことはないが、今だに棚の奥にしまってある。畑中良輔先生も、CD 化された LP は処分するという方針で、書斎の省スペース化をされていたが、要らない LP の中から、マッケラス指揮のヤナーチェクのオペラ一式を持ち出そうとした弟子をいきなり怒鳴りつけた。「それはダメ！！その装丁はもう出ないんだから！」その御声には悲壮感さえ漂っていたのを思い出す。LP 装丁の美しさといえば、以前ライマンの『リア』が気になっていたが、ようやく札幌の中古店で見つけたものの、あまりの高額売価に断念してしまった。

☝PC で CD をコピー出来ると知ってから、鑑賞スタイルから鑑賞意識まで全く変わってしまった。この 5 年間、気になっていた CD 約 300 枚をコピーし、それを iPod に落として、四六時中イヤホンを付けっぱなしで聴いている。自宅オーディオで、盤面が擦り切れるまで精聴するスタイルは過去のものとなり、膨大なデータを瞬時に取り出せる iPod が主流になり、乱聴スタイルになった。

またiTunesからダウンロードする事に慣れると、ジャケットデザインや装丁にこだわる意識も希薄になっていった。精聴のままだったら、一生たどり着けなかった膨大な音源に出会うキッカケにもなり、テクノロジーの進歩のお陰と感謝している。
☞「レコ芸」や「音友ムック」「バンドジャーナル」といった専門誌で批評家の先生方が紹介される名盤・珍盤・希少盤や、マニア達のブログでのレヴューを手がかりに、主に日・米・英・仏・伊・独のAMAZONで購入して、スタンダードとは言えない領域まで鑑賞の範囲も広がった。バントックの管弦楽曲、スカルコッタス、フェルドマンの室内楽曲、ナンカロウの自動ピアノ曲や、マヌエラ・ヴィースラー(fl)、スーザン・シェパード(バロックvc)の演奏などに巡り合えたのは、情報を提供している皆様のお陰と感謝している。
☝欲は留まる事を知らず、今度はまだ音源化されていないもの、されそうなものが、気になってしょうがない。黛敏郎『XYZ』、ポリーニ『シュトックハウゼンのピアノ曲』(DG盤で！)、C.クライバー『英雄の生涯』(SONY盤で！)、ジョルジュ・バルボトゥ(hrm)とポール・オンニュ(fg)のソロアルバム(ステレオ録音で！)、ロベール・マッサール(br)のアリア集、68年ダラスでの『オテロ』ヴィッカース(オテロ役)・ロスアンヘレス(デズデモナ役)・ザナージ(イアーゴ役)のCD化を熱望している。
☜私自身の録音予定は？と稀に訊かれるが、数年前に専門業者と契約して相模湖畔のホールまで予約し、万全の録音体制に販路まで確定していたにもかかわらず、録音直前、関西でのオペラ稽古中に足を負傷し、どうにも体調が整わずあえなくキャンセルしてしまった。仕切り直しとなって久しいが、趣味の音源探索と違って、仕事の音源収録はひたすら前進あるのみという訳には行かず、これは慎重にならざるを得ない。いつの日か機が熟したら、良い状態の自分の歌声を残してみたいと思う。
☞新設ホームページ　http://yasuo-horiuchi.webnode.jp/